

二〇二一年度 安田女子高等学校 入学試験問題

国 語

一

次の文章は、鷺沢萌の小説『ほおずきの花束』の一節です。これを読んで、後の問いに答えなさい。

高校三年生の夏代は、大学受験を控えている受験生である。しかし、夏休み前の模試で過去最低の結果に終わる。また、このタイミングで、好きだった男の子に告白して拒絶される。以下はそれに続く場面である。

夏休みは容赦なくはじまり、夏代は綾とゼミに通いはじめた。辛うじて通い続けてはいたが、授業にはまるで身が入らず、空き時間になると綾とふたりで駅前のハンバーガー屋に行き、アイステイーを啜りながらぼんやりと¹年号クイズなどをしあつた。もう自分には、良いことなんて何にも起こらないような気がした。

そして悪いことというのは、いちど起こると続けざまにやって来るものである。夏休みも半ばを過ぎたある日のゼミの帰り道、混み合った電車に揺られていた夏代は、今まで心地良く^{のうみそ}脳味噌に侵入してきていた²ヒューイ・ルイスの歌声が、だんだん薄れていくのに気がついた。

* ウォークマンの電池はその日の朝に替えたばかりで、バッテリー切れということは考えられない。それでも慌ててランプを調べると、バッテリー残量を示す赤ランプは煌々と光っている。夏代はウォークマンを揺すつてみた。するとブチリというイヤな音が鼓膜に伝わり、ヒューイはまるつきり黙ってしまった。あとはもう、振っても叩いてもウンともスンとも言わない。

五月の誕生日に買ってもらったばかりのウォークマンだったが、使いはじめたその日からどうも調子が悪かった。

「……ばかやるお」

思わず低く^{つぶや}呟くと、隣りに立っていたサラリーマン風の若い男が、驚いた顔で夏代を見た。

夏代は家に帰るとすぐにウォークマンを買った店に電話した。故障したと言うと、本店まで持っていっていただければ無料で修理いたしますと言われた。

³当然だ、そんなことは。――そう思いながら「どこにあんですか、その本店っていうのは」と不機嫌な声で訊くと「は、武蔵小杉です」と恐縮しながら答えた。武蔵小杉！ 川むこうじゃないよ。そう言いたいのを我慢して、夏代は本店の場所を訊いた。翌日、電機屋にウォークマンを預けてから、夏代はゼミに向かうために途中下車してそこからバスに乗った。ゼミを終えて、いつものように綾と喫茶店に入り、さあ行こうかというときになって、夏代は「ひッ」と声にならない声を出した。かばんの中に財布がなかった。

喫茶店の分と帰りの電車賃だけ綾に借りて夏代は帰途についたが、電車の中では、失くなった財布のことを忙しく考えていた。現金は大して入ってなかったけれど、銀行と郵便局のキャッシュカード、ごていねいなことに原付の免許まで入れていた。途中下車してバスに乗るときまではあったわけだから、落としたとするとバスの中か、それともバス停か……。

母親にこっぴどく叱られ、取りあえず銀行と郵便局に電話してキャッシュカードの取引停止手続きをした。次の日、夏代はゼミを休み、途中下車した駅の駅前にある交番へ出向いた。

交番には若いお巡りさんと年とったお巡りさんがひとりずついて、年とった方が夏代に椅子をすすめた。

「落としたのはどこ？」

「あのバス停のとこ……だと思っんですけど」

「どんな財布？」

「えーと茶色い革のヤツで、わりとおつきくて、一方がボタンになって……」

そここのとこで、今まで奥の扉のむこうにいた若い方が、扉から半分顔を見せて大声で言った。

「あー、届いてるよ、それ」

若いお巡りさんは机の引出しから、^A こともなげに夏代の財布を取り出した。

「これでしょ」

「そうです！」

夏代は飛びあがりたいのを我慢して、財布を引き取るためのいろいろな書類に住所や名前を書きこんだ。中のものは何ひとつ失くなっていなかった。

「良かったねえ、無事戻ってきて」

年とった方がニコニコしながら言った。なんだかここ数か月のうちで、久しぶりに他人に優しくされたような気がして、夏代は^B 不覚にも涙ぐみそうになりながら「ハイ」と答えた。

帰り際、夏代はお巡りさんたちから一枚の紙きれを渡された。財布を拾ってくれた人の住所や電話番号が書いてあるもので、電話してお礼を言っておきなさいと言われた。

「藤原俊造 七十二歳」

紙きれの一行目に読みにくい行書体でそう書かれていて、住所は世田谷区玉^{たま}堤^{つつみ}となっている。ここから歩いてても、さほどの距離ではなかった。

夏代は久しぶりに、ほんとうに久しぶりに明るい気持ちになっていたから、電話をするよりも直接行ってお礼を言おうと考えた。駅前から銀^{いちよう}杏の並木道をずっと歩いていくと、途中にある花屋の店先に明るいオレンジ色の花が咲いていた。何の花かと思つて近寄ってみると、それは花ではなく少し早いほおずきの実だった。夏代はほおずきを買った。愛想のいい店のおばさんが、「少しおまけしときますね」と言いながら一本余分に持たせてくれた。

夏代はほおずきを花束のように抱えながら並木道を歩き、坂道を下り、昇り、また下った。

川つぶちの町に着いて、商店街で訊^{たず}ねながら行くと、その家は案外簡単に見つかった。

ひっそりとした、木造の小さな家の門柱に「藤原」という表札が見えた。人^{ひと}気のない玄関の引き戸の前で、なんとなく入りかねていると、背後で足音が聞こえた。

犬を連れた老人が立っていた。柴^{しばいぬ}犬に似た雑種らしい犬は、はッはッと息を吐きながら立ち止まった主人を見あげている。

「あの……、藤原俊造さんですか」

「そうです」

老人は不思議そうに、ほおずきの花束を抱えた奇妙な女の子を見つめた。

「あの、あたし、お財布拾ってもらった者なんですけども……」

「ああ」

老人は^C 合点がいったように頷^{うなず}いた。

「あの、ほんとにありがとうございました」

そう言つて頭を下げたとたん、⁴ 唐突に冷たい涙が滝のように夏代の^{ほお}頬を流れ落ちた。びっくりしたのと恥ずかしいのが一緒くたになって、夏代の身体の内側を駆けまわった。

夏代は「お礼です」と叫ぶように言つてほおずきを老人に渡し、驚いた顔の老人と犬に「さよならっ」と言った。

駅へ続く坂道を、夏代は駆け昇った。心臓がばくんばくんと音を立てた。終わりがけた夏の風が夏代の頬をすべっていった。

⁵ そう思つてしたことでもなくとも、優しさとか善意とかいうものは確かに人間を救うことがあるんだな。わけのわからなくなつた頭の中で、夏代はそんなことを考えていた。

何か月ぶりかで走った。何か月ぶりかで身体が汗のぶんだけ軽くなり、そのぶん心も軽くなったような気がした。

（ 鷺沢萌『ほおずきの花束』 ）

＊ ウォークマン ヘッドホンまたはイヤホンで聞く、携帯用小型音楽再生機。

問一 二重傍線部 A 「こともなげに」 B 「不覚にも」 C 「合点がいった」の、本文中の意味として最も適当なものをそれぞれの選択肢の中から一つ選び、記号で答えなさい。

A こともなげに

ア なんとも思わない様子で イ つまらなそうに ウ 手慣れた様子で

エ 平気な顔をして オ 楽々と

B 不覚にも

ア 予想通り イ 思わず ウ 気づかぬまま

エ なぜか分からず オ おろかにも

C 合点がいった

ア 共感した イ 承諾した ウ 理解した エ 発見した オ 気がついた

問二 傍線部 1 「年号クイズなどをしあった」とあるが、ここでの夏代について説明したものとして、最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア さびしさや孤独を埋めるために、友だちとの時間を大切にしている。

イ 全く受験勉強をする気持ちになれず、最低限のことだけはやろうと頑張っている。

ウ 悲しい出来事を忘れるためにも、懸命に受験という現実と向き合おうとしている。

エ ゼミについては行ってもやる気がでないので、別の勉強スタイルを探している。

オ 勉強にも大して気分が向かないまま、何となく受験生らしく振る舞っている。

問三 傍線部 2 「ヒューイ・ルイスの歌声が、だんだん薄れてい」ったのはなぜか。二十字以内で答えなさい。（句読点なども一字に数える。以下の問いも同様。）

問四 傍線部 3 「当然だ、そんなことは」とあるが、この時の夏代の心情を説明したものとして、最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 不良品を買わせたのだから無償で修理するのはわざわざ言うまでも無いことだというiraだち。

イ 不良品も有料で修理されるのかと考えていたが、無料で修理するといってくれた電気屋への驚き。

ウ 不良品を売りつけて迷惑をかけているのだから、電気屋が恐縮するのは当然だという腹立ち。

エ 様々な不幸に見舞われている自分の状況を理解しようとしてもしない無神経な店員への不満。

オ 誰のせいだとも言えない自分の不幸へのやり場のない怒りを発散できないもどかしさ。

問五 傍線部4「唐突に」という表現が使われているのはなぜか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 夏代の中でうずまきはじめた怒りや悲しみ、安心といった複雑な感情が、藤原さんとの関わりの中で、爆発したことを表現するため。

イ 夏代がつとめて冷静な気持ちで藤原さんと向かい合っているつもりだったのに、なぜか涙が流れたという不思議さを表現するため。

ウ 夏代自身気がつかないうちに、人の優しさにふれる中で心情の変化が起きており、それが涙の形をとってあふれ出たことを表現するため。

エ 目の前で夏代が涙を流したことが、事情を知らない藤原さんにとっては意外な出来事であったということを表現するため。

オ 夏代が藤原さんとの対話の中で、この夏の辛い日々つらいのことを一つ一つ振り返る中で、感情が抑えられなくなったことを表現するため。

問六 傍線部5「そう思っていたことでなくとも、優しさとか善意とかいうものは確かに人間を救うことがある」とはどういうことか。本文に即して六十字以上七十字以内で説明しなさい。

問七 この小説の語り手について説明したものとして、最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 夏代と藤原さんの二人についてのみ、心の内側や行動を語っている。

イ 夏代に焦点を当て、その行動や考えていること、感じていることを語っている。

ウ 主人公以外の登場人物については、心情や行動を一切語ることがない。

エ 三人称視点で描かれているので、全ての登場人物の思いを語っている。

オ どの登場人物についても、行動だけを語り、心情を語ることはない。



次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

人間は常日頃から、なんとも複雑な言語活動をしている。

「**A**「今日はだいぶ冷えますね」といった表現。気温なんてわざわざ口にださなくても、皆が**X**で感じていることである。^aキショウ予報士でもなくせに、どうして天気の問題を持ち出すのか。

単なる挨拶ということも考えられる。とはいえ挨拶だったら「こんにちは」で充分なはずなのに、「今日はだいぶ冷えますね」というのはなぜか。気温情報を通して相手への配慮を示すのか。いろいろと複雑な心理が想像される。

それだけではない。ある一定の文脈を整えば、この「今日はだいぶ冷えますね」はいろんな意味を持つことになる。

たとえば知人といっしょにどこかへ出かけるとする。外に出てみれば気温はマイナスに迫る^bカンパ。行先まではけっこう距離がある。そこで「歩きますか、それともタクシーにしましょうか？」と尋ねてみた。すると知人はこう答えた。

「そうですね、今日はだいぶ冷えますね」

冷え込むときにわざわざ徒歩で行きたがる人はいない。これはどう考えても「^cシユンジに判断するのではないか。あ（）」という意味だろう。そんなことを

もちろん文脈によっては意味も変わってくる。わたしのように寒いのが大好きで、マイナス二十度くらいから元気になる人間だったら「これだけ寒いと、元気よく歩きたくなりますよね」という意味で使うかもしれない。

このように¹ 発言者と文脈によつて、同じ発言がいろいろ解釈される。

「今日はだいぶ冷えますね」↓窓を閉めてくれませんか

「今日はだいぶ冷えますね」↓ストーブを入れてもいいですか

「今日はだいぶ冷えますね」↓水泳大会は中止しましょう

「今日はだいぶ冷えますね」↓夕食は鍋にしませんか

だったらハッキリそういえばいいのに。だがこれが人間の会話なのである。とくに遠回しというほどではないけれど、ストレートに情報を伝えるのではなくて、なんとなく^{ひとひね}一捻りした表現を使いたがる。ちよつと気の

Bそれが伝わらないとなると、悲しかったりイライラしたりするのだから、なんとも^dシマツに悪い。

お互いに理解するために、どのようなメカニズムが働いているのか。

会話には話し手と聴き手がいる。話し手は何も考えないで話をはじめるわけではない。**C**聴き手がすでに知っていることに基づいてメッセージを送ろうとする。そうでなければ聴き手はワケが分からなくなってしまうから、そうならないための配慮である。

Dそれだけだったら、「今日はだいぶ冷えますね」のようなあいまいなことをいう必要がない。ところが話し手は聴き手が自分のメッセージをどのように受け止めるか、事前に^eハアクしていることが多い。おかげで「今日はだいぶ冷えますね」のように、なんとも理解できそうな表現を使つても、ちゃんと分かり合えるようになっていく。つまり空気を**Z**いるのである。

(黒田龍之助『外国語を学ぶための言語学の考え方』)

問一 二重傍線部 a「キシヨウ」 b「カンパ」 c「シュンジ」 d「シマツ」 e「ハアク」のカタカナを漢字に直さない。

問二 文中の空欄 A～Dに入る語をそれぞれ次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(記号は一度しか用いない。)

ア しかも イ だが ウ たとえば エ まず オ または

問三 文中の空欄 Xには人体に関わる語が入る。適当な漢字一字を自分で考えて答えなさい。

問四 文中の空欄 Y、Zに入る最も適当な表現を、それぞれの選択肢の中から一つ選び、記号で答えなさい。

Y ア 利^きいた イ 引けた ウ 向いた エ 揉^もめた オ 乗った

Z ア まいて イ 知って ウ 読んで エ 持って オ 払って

問五 空欄 (あ) に入る適当な言葉を自分で考え十字以内で答えなさい。

問六 傍線部1「発言者と文脈によって、同じ発言がいろいろ解釈される」とあるが、その後に紹介されている例を次の表のよう
にまとめました。表の空欄に対する後の問いに答えなさい。

発言	文脈			解釈
今日はだいぶ冷えますね。	(②)	(①)		窓を閉めてくれませんか
		(③)		ストーブを入れてもいいですか
	(④)	ストーブが入っていない。		水泳大会は中止しましょう
		プールに入るのは無理だ。		夕食は鍋にしませんか

1 空欄 (①) (②) に入る最も適切な語をそれぞれ次の中から一つ選び、記号で答えなさい。
ア また イ それから ウ だから エ それとも オ しかし

2 空欄 (③) (④) に入る適当な言葉を自分で考えて答えなさい。

問七 本文を読んで生徒Aと生徒Bが次のような話をしています。空欄 (1) (2) に入る適当な言葉を自分で考え五字
以上十字以内で答えなさい。

生徒A	改めて私たちの言葉の使い方を見直してみるとなぜこれで通じるのか分からない表現をしていることが多いよね。
生徒B	そうそう。この間父が休日に仕事に行っていた時、「お父様はご在宅ですか」と電話がかかってきたのだけれど、私「父は会社に行っています」と答えたのよね。
生徒A	確かに問われていることに対しては「(1)」と答えるだけでいいよね。でも私が電話した時に「会社です」と言われたら「今はいらっしやらないのか」と思うだけでなく「今は連絡とれないな」とか「(2)」連絡がとれるだろう」と思うわね。
生徒B	そうね。言われたわけではないけれど、私、その人の連絡をとりたいという気持ちを無意識にくんでいたのかも しれないわね。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

今は昔、遣唐使の、もろこしにある間に妻を¹まうけて、子をませせつ。その子いまだいとけなきほどに、
唐の国(中国) 幼い 頃

日本に帰る。妻に契りていはく、「こと遣唐使いかにつけて、消息やるべし。又此子、^{このこ}乳母はなれん
約束して 別の 来るときに 手紙を頼みましょう 離れるようになる

ほどには、むかへとるべし」と契りて、帰朝しぬ。母、遣唐使のくるごとに、「消息やある」と尋ねれど、
迎えて引き取りましよう 日本に帰った 手紙はありますか

あへておともなし。母おほきに恨みて、この児を^{ちこ}いだきて、日本へむきて、児のくびに、「遣唐使それがしが
全く 連絡 誰その

子」といふ簡ふだを書いて、ゆひつけて、「すぐせあらば、親子の中は行き逢ひなん」といひて、海になげ入

れて帰りぬ。

父、ある時難波なにはの浦の辺に行くに、沖かたの方に、鳥のうかびたるやうにて、白き物²みゆ。ちかくなるままに
浮うかんでいるようにに 見える 近づいて来るのにつれて

みれば、童わらはにみなしつ。あやしければ、馬をひかへてみれば、いとちかくよりくるに、四^{よつ}ばかりなる児の、
不思議に思つて 止めて 寄つて来る で

しろくをかしげなる、波につきてよりきたり。馬をうちよせてみれば、大きな魚のせなかにのれり。
かわいらしい子が 乗っている

従者ずさをもちて、いだきとらせてみければ、くびにふだあり。「遣唐使それがしが子」とかけり。「さは、我
お供の者に 抱き それでは

が子にこそ有りけれ。もろこしにていひ契りし児をとはずとて、母が腹たちて、海になげ入れてけるが、
あつただ □約束した たずねないからと

しかるべき縁ありて、かく魚にのりてきたるなめり」と、あはれにおぼえて、いみじくかなしくてやしなふ。
そうなるはずの このよう に 来たのであろう しみじみと感動して たいそう かわいがって育てた

遣唐使のいきけるに付けて、このよしを かきやりたりければ³、母も、今は はかなき物⁴に思ひけるに、
行つたのに 託して こと 書いて 思っていたので

かくとききてなむ、希有けうの事なりと、悦⁵びける。
このように聞いて 珍しい

さてこの子、おとなになるままに、手をめでたく書きけり。魚にたすけられたりければ、名をば魚養うをかいと
につれて 文字 上手に

ぞ付けたりける。七大寺の額がくども共は、これが書きたるなりけり。

(『宇治拾遺物語』)

問一 傍線部1「まうけて」の読み方をひらがなで書きなさい。

問二 傍線部3「かきやりたりければ」、5「悦びける」の主語をそれぞれ次の中から一つ選び、記号で答えなさい。
ア 遣唐使（父） イ 妻（母） ウ 児（子） エ 従者 オ 魚

問三 傍線部2「白き物」とは何か。それを説明している部分をちょうど十八字で抜き出し、最初の五字を書きなさい。

問四 傍線部4「はかなき物」の意味として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 亡くなったもの イ つまらないもの ウ 頼りないもの
エ どうでもいいもの オ いいかげんなもの

問五 波線部「すくせあらば、親子の中は行き逢ひなん」について、次のように三人が話をしています。後の問いに答えなさい。

生徒A 「すくせ」の意味は何だろう。

生徒B 「救(う)世」と書いて「すくせ」だと思うな。神仏の救いを求めているのだと思う。母親は、神仏の力を信じて、一か八か、子どもを海に投げ入れたのよ、子どもが(①)に行き着くことを願って。

生徒C 「宿世」という漢字をあてる「すくせ」があるわ。これは、(②)という意味ね。母親は、(②)として定まっているならきつと父親と出会えるはずだと信じて、子どもを海に投げ入れたのだと思うわ。

生徒A 「願って」とか「信じて」とかいうのは違うと思う。「③」とあるから、怒りにまかせて投げ入れたんじゃないかしら。なぜなら、母親は(④)のに、父親は(⑤)から。

生徒B そういえば、遣唐使が派遣されていた奈良時代には中国と日本の船旅は、命がけだったそうよ。百人一首に、遣唐使だった人の歌があつて、この人は、日本に帰ろうとして船が難破し、結局日本に帰れないままになったと書いてあつたわ。

生徒A 知ってるわ、「天の原ふりさけみれば春日なる三笠の山に出でし月かも」よね。「天の原」は大空のことね。「春日なる三笠の山」は奈良の春日にある三笠山のこと。今この人は、(⑥)にいて月を見ているのよね、(⑦)で。

生徒C 「魚養」の母親は、遣唐使の事情はわからないだろうから、ただただ怒っていたのかもしれないわね。

1 空欄①に入る国名を答えなさい。

2 空欄②に入る最も適当な語を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 覚悟 イ 約束 ウ 法則 エ 運命 オ 定説

3 空欄③に入る適当な表現を、本文中から十字以内で抜き出しなさい。

4 空欄④⑤に言葉を入れて理由を完成させなさい。解答欄に合わせ、自分で考えて、④は二十字以内、⑤は十字以内で書くこと。

5 空欄⑥に入る国名を答えなさい。

6 空欄⑦に入る最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 惜別の思い イ 沈痛な思い ウ 望郷の思い エ 皮肉な思い オ 焦心の思い

国語 解答用紙

→

問一

A

B

C

問二

問三

問四

問五

問六

問七

→

問一

d	a
e	b
	c

問二

A

B

C

D

問三

問四

Y

Z

問五

問六

①

②

④	③

問七

2	1

→

問一

問二

3

5

問三

問四

問五

2

母親は

のに、

父親は

から。

受験番号